

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600487		
法人名	(有) 光洋エステート		
事業所名	グループホーム日吉 A棟		
所在地	苫小牧市日吉町3丁目1-9		
自己評価作成日	2017.10.16	評価結果市町村受理日	2017.11.14

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0173600487-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年11月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康面で、体力が低下しない様に、楽しんで体を動かせるように、体操、散歩、口腔体操に力を入れている。
又、行事、レクに出来るだけ参加頂ける様に、工夫をしている。

入居者様・ご家族様がホームでの暮らしが分かるように様に報告し、理解を求めている。
生活が、楽しいと思って頂ける様に支え合い、共感する支援に努めています。

職員の笑顔、穏やかな口調で接することで、気持ちが通じると考えています。
職員の意識が変わる事で入居者が変わる。と考え 職員教育に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

苫小牧市郊外の、JR系井駅から近い住宅地にある平屋建て2ユニットのグループホームである。玄関前はバス通りで、近くには公共の運動場や体育館、公園、小学校、教会、コンビニエンスストアなどがあり、住環境に優れている。1階の玄関を挟んで9名のユニットが両側にあり、共用空間、居室、事務所、浴室などいずれも広く使いやすく作られている。中庭も広く、畑で野菜を育て、パークゴルフや外気浴を楽しむことができる。共用空間には絵画やホーム便りなどが飾られ、小上がりの和室コーナーもあり、利用者は主に居間で寛いでいる。利用者がそれぞれに合った生活を継続できるよう、個別の支援に力を入れ、趣味のミニチュアストロブや造花の制作、野球観戦や喫茶店への外出など、好みの生活が継続できるよう支援している。また、地域交流が活発で、ごみ拾いや合同避難訓練、盆踊り、運動会など様々な行事に参加したり、小学生やボランティアとも交流している。運営推進会議には、行政のほか、地域や家族の多数の参加を得て、有意義な会議となっている。定期的に職員の勉強会を開催し、外部研修や関連法人の研修にも参加しており、学びの機会が多いのも特徴である。職員全員が介護計画を理解し、サービス向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の日勤勤務担当が理念の意義に対し 目標を持ち共有実践に繋げている。又カンファでも再確認を行っている。	ケア理念の中に「地域の皆様と支え合い認め合える生活」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念としている。理念を事務所や各ユニットの共用部分に掲げている。毎日の目標も理念に沿った内容にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事等に参加、町内の方と顔見知りになり交流している。	町内会のごみ拾いや合同避難訓練、盆踊り、運動会など様々な行事に利用者とともに参加している。小学生が総合学習で事業所を訪れ、小学校の学習発表会を利用者が見に行っている。クリスマスには教会関係者の訪問も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、認知症の行動、支援方法を話理解を求めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価・監査・アンケート等の評価について、話し合っている。	会議は2か月毎に開催され、市や地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、多数の家族の参加を得て意見交換している。行事や感染症、防災など毎回テーマを設定している。また、議事録を家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、必ず参加頂き、取組みの報告させて頂き協力を頂いている。又相談をさせて頂く機会を持ち、助言を頂いている。	市や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加し、情報提供を受けている。最近では職員の処遇改善の関連課題を市役所に相談している。市のグループホーム連絡会や市が主催する研修にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所での研修、職員同士の声掛け等に取り組んでいる。又虐待対策委員会を開催し、職員同士の理解を深める為、勉強会を重ねている。	身体拘束は行われておらず、禁止の対象となる具体的行為を示したマニュアルを整備し、年1回程度の勉強会で共有している。玄関は日中施錠せず、一方のユニットは離設の事例があったため、出入りにセンサーを設置し、出入りが分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い防止に努めている。又気になる行為には、声掛け話し合いを持っている		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、ご家族からの相談を受けて、必要性がある場合活用で来る支援している。 職員は、1年に1回は研修を行っている今年度は11/16日に予定しており、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、丁寧な説明を行っている。 改定時、説明が不十分と家族から指摘、市役所に相談 再度説明理解を求める。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、意見を頂いた際には、検討改善している。又アンケートを頂き、反映させている。	家族の来訪時や運営推進会議で家族から多くの意見を得ており、意見を申し送りノートや個別ノートで共有している。利用者や家族にアンケートも行っている。毎月、写真を多く掲載したホーム便りを作成し、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員採用に関しては、職員の意見を聞く姿勢を取っている。	毎月ユニット会議と役職者会議を開催し、活発に意見交換をしている。管理者と職員は年2回個別面談を行っている。職員は事故防止や感染症対策、行事などの担当を持ち、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望・仕事量等状況に応じ働ける様に、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自にあった研修を受けられる様に、機会を設け進めている。会社独自の研修に力を入れている。研修を受けた職員が、伝達研修を実施、取得できる体制を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所管理者が、研修を行い、質の向上に努めている。又他事業所の交流も行い意見交換出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所申込み段階で、見学・面談、本人家族の困っている事をお聞きし、共感し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期の段階で、出来るだけ変わらない環境を心がけ、ご家族とともに、話し合う機会を多く持ち関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に対し、今後の必要性を考えリハビリーの検討・ボランティアの活用等話し合った。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に、役割り分担が出来つつある。毎朝モップ掛け、食事後の茶碗拭き、食事の盛り付け、食材分け等出来る事を共に行っている。最近では、自ら手伝いをされる姿あり。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が、通院受診される方、外出される方、時には居室で食事をされる方等、職員とご家族共に支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時に、訪問介護利用されており、ホーム入居後もヘルパーさんの訪問あり、関係性が途切れない支援に努めている。又在宅時の近所の方が遊びに来て頂く等支援に努めている。	数名の利用者に昔近くに住んでいた方や元のヘルパー、現利用者で親しい元の利用者家族などが来訪している。2名の方は馴染みの理美容室を利用している。野球観戦に行ったり、趣味が継続できるよう利用者と一緒に手芸や工芸の材料を買いに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを行うときは、リードする入居者がいて、他の入居者に声を掛ける等お互いが関わりを持っている。トラブルになりそうときは、さげなく支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ご家族が顔を見せに来て下さる等、関係性を大切にしている又電話連絡を取り合い、相談する関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者で、毎日の日課が散歩の方には、生活スタイルが変わらない様に、希望に添っている。	ほとんどの方は言葉で思いや意向を表出でき、難しい方も表情や仕草から把握できている。フェイスシートとアセスメントシートを整備し、情報の追記も適切に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅隣の方が見えたり、訪問したり、交流を持ったり、在宅時のヘルパーさんが訪問されたり、これまでの繋がりを大事にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事は、行って頂いたり、見守り、出来ない所は職員と一緒にいき、有する力を把握努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、担当者の課題とケアについて深く観察、ご家族、本人の意向を反映、介護計画を作成している。	介護計画を短期目標3か月、長期目標6か月で更新している。モニタリングをもとにカンファレンスで意見交換を行い計画を更新している。日々の記録は介護目標の番号を記入し、利用者の変化などには下線を引いて分かるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の徹底、特記事項については、介護記録の備考に記入、又個別のノートを用意、職員間で情報を共有実践している。又介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	核家族、老夫婦の状況で、訪問が少ない等状況の変化がある中で、ボランティアの力を頂き、ニーズにこたえている。又お寺へ行く、食事同行、地域包括支援センター行事参加等取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの力大きく、入居者は、来られる事を楽しみにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の協力で、何でも相談できる環境を築いている。又ご家族と相談しながら、病院受診に支援、必要時には同行を行っている。	5名の利用者が月1回協力医療機関の往診を受診し、他の利用者は協力医またはかかりつけ医に通院し、家族が事業所が付き添っている。受診内容を個人毎の「医療・受診経過表」に記載している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で、週2回の訪問看護の中、相談することで、早めの受診が受けられる様に支援。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族が病院に来られまで、職員が対応、病院との情報交換、入院準備等行う。 入院後は、病院関係者とのやり取りの中、認知症である事踏まえ早期退院に向けて相談を行っている。又退院後も連絡をとり、関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院Dr、ご家族と相談繰り返し、話し合いを重ねる。職員の意見も取り入れ、方針を共有。チームとして支援に取り組んでいる。	利用開始時に「利用者様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、署名捺印を得ている。過去に事業所での看取りはなく、重度化した場合は家族と相談し入院となる場合が多い。将来的に看取りを行う体制を整えたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行い、実践力を身に付ける事は出来ない。急変や事故発生に備えて、各ファイルを用意、職員へ周知している。予測できる事態を伝え対応方法を伝達している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日の避難担当を意識介護日誌に記録。又地域の協力体制は出来ており、協力頂いている。	年2回の昼夜を想定した避難訓練を実施し、消防や地域の協力を得ている。職員の救急救命訓練は新人を中心に行っており、受講後の期間が開いている職員もいる。災害時に必要な備蓄品を用意している。	全職員が概ね3年以内ごとに救急救命訓練を受講できるよう取り組みを期待したい。地震等発生時の個別対応について、マニュアルを参考に職員間で定期的に話し合うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を基に、気持ちを受け入れる対応を心がけ、話を聞く姿勢を持っている。又言葉かけには、細心の注意を払い、気になる言葉かけには、お互い注意する対応をしている。	外部研修や勉強会で接遇、権利擁護、個人情報などを学び丁寧に対応している。事務所で申し送りや個人的な事を聞くようにしてプライバシーに配慮している。書類関係も適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思決定で行って頂いている。又家事を職員と行っているが、自己決定に添って行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを尊重、優先の努力を行っている。希望に添える支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物の希望がある場合は、オシャレが出来るように支援、季節に合った服装が出来るように支援している。		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に食事の準備、片づけを行う、又盛り付けは、見栄えに気を使い、工夫している。	外食をする機会を設けたり、出張職人によるラーメンや握り寿司を楽しんでいる。畑の収穫物を食材に屋外でバーベキューをしたり、おやつ作りに利用者も参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分の量を把握記録に残している。又栄養バランス献立は、栄養管理士によるメニューで、バランスに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人違う対応ですが、個々の問題を把握し、毎食後口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、布下着 夜間DPANTS対応にするなど一人一人の力や、排泄パターンを把握、出来るだけ自立に向けた支援を行っている。	全員の排泄状態を記録し、声かけや誘導の際には羞恥心に配慮して行っている。半数ほどの方は布下着や夜間の対応を工夫し、数人以外は昼夜間ともトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の飲み物、健康食品等工夫、又運動に力を入れ、運動したくなる工夫を取り入れたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間が決められているが、入りたくない入居者様には、無理強いせず、曜日を変更出来るだけ個々にそった支援を心がけている。	日曜を除き午後の時間帯に週2~3回の入浴を支援し、状況によって午前中に入る方もいる。入浴時には広い浴室で滑らないように工夫している。両側から介助できる浴槽で全員が湯船に浸かり、入浴中は職員との会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	TVが好きで、眠たくなるまで、見ている方、早めに部屋に行かれ過ぎられる人等様々ですが、自分のペースで休まれるように、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の担当を決めて、把握理解し、服薬に関しては、チェック表を作成、間違いがない様に支援。又薬ファイルを作成しすぐに目を通せる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の散歩、麻雀、花札と楽しみを持ち、一人一人に係って支援に努めている。		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って、外出し、職員と一対一で、過ごされる等支援に努めている。又町内会行事に参加し協力を頂きながら、楽しんでいる。	周辺を車椅子使用の方も一緒に散歩し、毎日のように海近くまで行く方もいる。スーパー、100円ショップや趣味の工具材料の買い物に職員が同行している。喫茶店や野球観戦に出かける方もいる。冬季も個別の買物で外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで、安心安定。自ら買い物をするなど、一人一人の力に応じ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が来ると喜び、話をされたり、又手紙や、はがきを受け取りができ喜ばれている。見守っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分で、混乱を招き、改善を行いました。又大きな音に敏感な方がおり、声のトーンに気を付けている。又季節感を感じられる工夫をしている。	和室コーナーがある居間は広々しており、食卓テーブルと別に団欒が楽しめるソファ席を設けている。居間から見えない場所にトイレを配置しプライバシーにも配慮している。色紙や和紙を素材にした季節の作品や広報紙などが掲示しており、温もりのある雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで雑談する姿あり、又一人になりたい時居室で鍵をかけ、過ごす姿もあり、見守っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた物を活かし、配置も変わらない様に相談しながら、大きな変化を避け居心地良く過ごせる工夫をしている。	居室に馴染みの家具類や小物類を持ち込み、出窓には好みの物が置かれている。趣味を生かした居室づくりでパズル、工芸作品や絞り染め教室で学んできた個々の作品を飾り、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ体を動かし、「出来る事」「職員と一緒に出来る事」を活かし、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600487		
法人名	(有) 光洋エステート		
事業所名	グループホーム日吉 B棟		
所在地	苫小牧市日吉町3丁目1-9		
自己評価作成日	2017.10.16	評価結果市町村受理日	2017.11.14

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0173600487-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康面で、体力が低下しない様に、楽しんで体を動かせるように、体操、散歩、口腔体操に力を入れている。
又、行事、レクに出来るだけ参加頂ける様に、工夫をしている。

入居者様・ご家族様がホームでの暮らしが分かるように様に報告し、理解を求めている。
生活が、楽しいと思って頂ける様に支え合い、共感する支援に努めています。

職員の笑顔、穏やかな口調で接することで、気持ちが通じると考えています。
職員の意識が変わる事で入居者が変わる。と考え 職員教育に力を入れています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年11月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の日勤担当が理念の意義に対し 目標を持ち共有実践に繋げている。又カンファでも再確認行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事等に参加、町内の方と顔見知りになり交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、認知症の行動、支援方法を話理解を求めている。又町内合同避難訓練では、車いすの捜査方法等の説明をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価・監査・アンケート等の評価について、報告話し合い、助言を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、2ヶ月に1回実施、出席者からの意見を頂き、協力を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所での研修、職員同士の声掛け等に取り組んでいる。又虐待対策委員会を開催し、職員同士の理解を深める努力に取り組んでいる。施錠に関して、カンファを何度も行い検討、しない対応を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い防止に努めている。 又気になる行為には、声掛け話し合いを持っている。		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、ご家族からの相談を受けて、必要性がある場合活用で来る支援している。 職員は、1年に1回は研修を行っている今年度は11/16日に予定しており、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、丁寧な説明を行っている。 改定時、説明が不十分と家族から指摘、市役所に相談 再度説明理解を求める。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、意見を頂いた際には、検討改善している。又アンケートを頂き、反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員採用に関しては、職員の意見を聞く姿勢を取っている。ユニット移動時には、本人、職員への聞き取りを行い実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望・仕事量等状況に応じ働ける様に、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自にあった研修を受けられる様に、機会を設け進めている。会社独自の研修に力を入れている。研修を受けた職員が、伝達研修を実施、取得できる体制を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所管理者が、研修を行い、質の向上に努めている。又他事業所の交流も行い意見交換出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所申込み段階で、見学・面談、本人、家族の困っている事をお聞きし、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期の段階で、出来るだけ変わらない環境を心がけ、ご家族ともに、話し合う機会を多く持ち関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に対し、今後の必要性を考えリハビリの検討・ボランティアの活用等話し合った。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の立場に立って物事を考え職員と一緒に何が出来るのか考え、工夫をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護すると言う立場ではなく一緒に暮らしているという気持ちを持ち関係を築いている。行事等では、本人、ご家族、職員と共に関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅にて訪問介護使っており、ホーム入居後もヘルパーさんの訪問あり、関係性が途切れない支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士がされげなく近くなる様な配置や作業をする際には、入居者同士で相談実行できる支援を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族が遠方で、これまでと変わらず関係性を続ける様に相談支援に努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の観察、傾聴しながら、フェイスシートや本人・家族からの要望の聞き取りを行い、ケアプランに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から話を伺ったり、その人らしく過ごせるように「馴染の暮らし方、環境を変えない等把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションを重ね観察し現状の把握に努め介護記録へ記載カンファで検討を重ねている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各スタッフの意見を集約し本人、ご家族の要望を踏まえながら課題を見つけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の見直しに活かせる様に、ケアの実践、結果気づきに等、記録に記入する様に心がけている。又職員間で、情報を共有するように実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	核家族、老夫婦の状況で、訪問が少ない等状況の変化がある中で、ボランティアの力を頂き、ニーズにこたえている。又お寺へ行く、食事同行、地域包括支援センター行事等の参加積極的に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの力大きく、入居者は、来られる事を楽しみにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の協力で、何でも相談できる環境を築いている。又ご家族と相談しながら、病院受診に支援、必要時には同行を行っている。		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2回/1ヶ月 訪問看護師来られ、情報提供を行い、体調面での質問や相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、HP相談員と連絡GHでの生活状況(認知症)をお伝え、早期の退院をDrと相談頂いている。又頻繁にHPへ行き、情報を頂く様に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院Dr、ご家族と相談繰り返し、話し合いを重ねる。職員の意見も取り入れ、方針を共有。チームとして支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行い、実践力を身に付ける事は出来ていない。急変や事故発生に備えて、各ファイルを用意、職員へ周知している。予測できる事態を伝え対応方法を伝達している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日の避難担当を意識介護日誌に記録。又地域の協力体制は出来ており、協力頂いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の話や行動を否定せず受け入れる様に努めている。又名前の呼び方、トイレの声掛け等不快感を与えない様にする。個人的な事は、居室で話す。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが決定する事なく、どうするか？の確認を行うようにしている。又急がせたりせず適度な働きかけを行う様心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にし、入居者様優先で本人の希望に添って支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添った化粧品の購入、髪型等美容師や家族に伝えている。(行きつけの美容師あり)		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付けなど職員と一緒に行う。時には本人に、切り方や味付け等教えて頂く事もある。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量・栄養バランスは、栄養士が管理し、入居者の好み(温・冷・大・小・固・柔)等考え、それぞれに応じた支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人違う対応ですが、個々の問題を把握し、毎食後口腔ケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツへの移行やパット使用に関して常に検討し、個々に合わせた誘導を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや乳酸菌の活用や、離床時間を増やし運動量の調節が出来る様に努めている。又Drと相談の上整腸剤の処方を受けている方いる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日は決まっているが、本人の希望や状況に合わせて柔軟な対応を行っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	TVが好きで、眠たくなるまで、見ている方、早めに部屋に行かれ過ごされる人等様々ですが、自分のペースで休まれるように、支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の担当を決めて、把握理解し、服薬に関しては、チェック表を作成、間違いがない様に支援。又薬ファイルを作成しすぐに目を通せる様にしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に寄り添った支援(早家・散歩・得意な事・外出)を行っている。			

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って、外出し、職員と一対一で、過ごされる等支援に努めている。又町内会行事(バスツアー等)、遠出(札幌・伊達)に参加し協力を頂きながら、楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで、安心安定。自ら買い物をするなど、一人一人の力に応じ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が来ると喜び、話をされたり、又手紙や、はがきを受け取りができ喜ばれている。見守っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁飾り等で季節を感じられるように工夫している。日当たりが良すぎる場合には、カーテンを引く配慮、温度の調節も心がけ換気をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで雑談する姿あり、又一人になりたい時居室で鍵をかけ、過ごす姿もあり、見守っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた物を活かし、配置も変わらない様に相談しながら、大きな変化を避け居心地良く過ごせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせスタッフが行き過ぎた介助を行わない様に努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 日吉

作成日：平成 29年 11月 11日

市町村受理日：平成 29年 11月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策 全職員が概ね3年以内ごとに救急救命訓練を受講できるように取組みを期待したい。地震等発生時の個別対応について、マニュアルを参考に職員間で定期的に話し合う事を期待したい。	全職員の救急救命訓練を受講する。 災害時の個別対応について、話し合う機会を設ける。	救急救命訓練を事業所にて実施予定 災害時の個別対応についてカンファレンス会議等で、話し合いの時間を設ける。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。